

# せんぞく 史跡千足古墳発掘調査現地説明会

岡山市教育委員会

日時：平成22年11月27日（土）13:30～

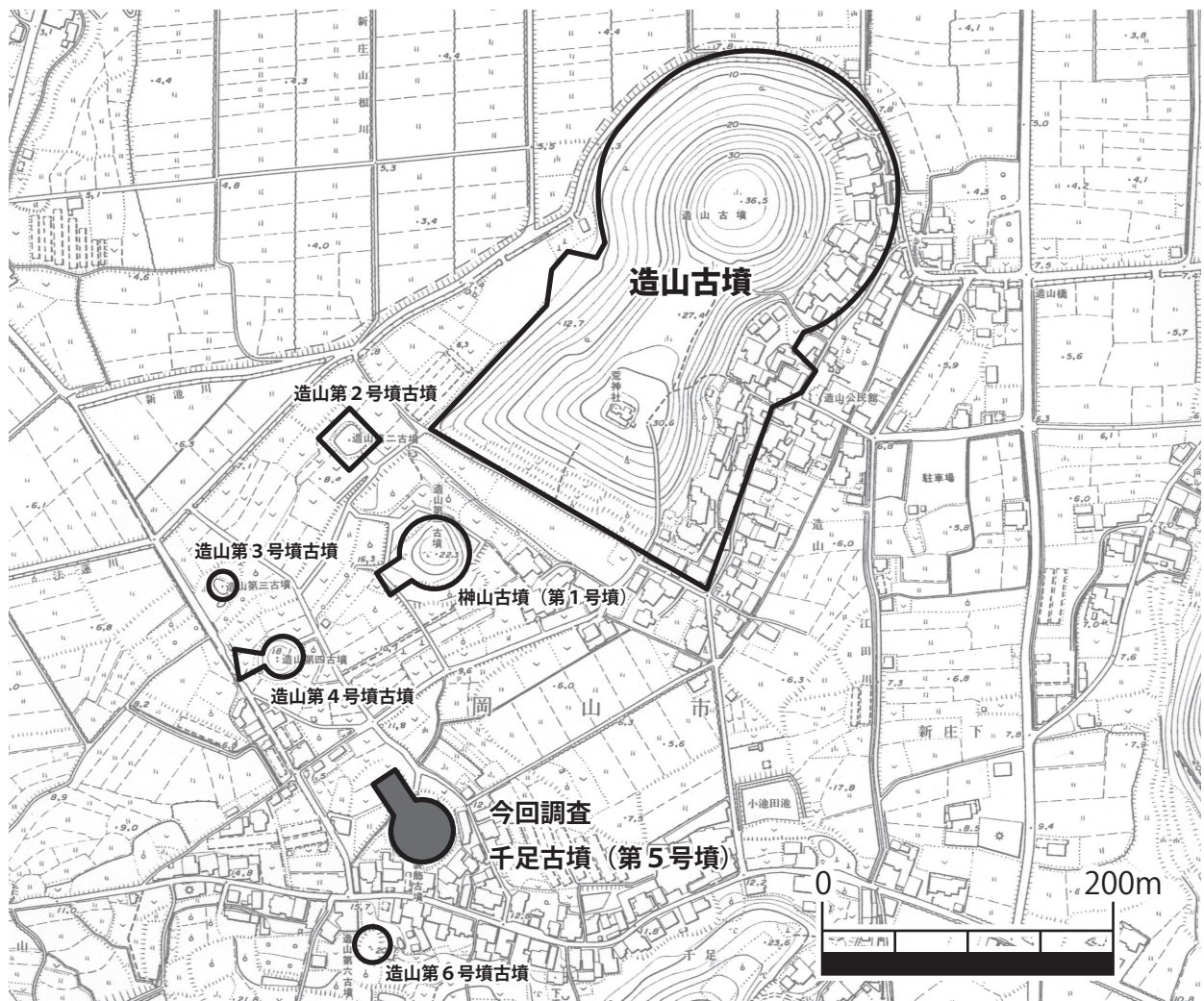
場所：岡山市北区新庄下（千足古墳）

## はじめに

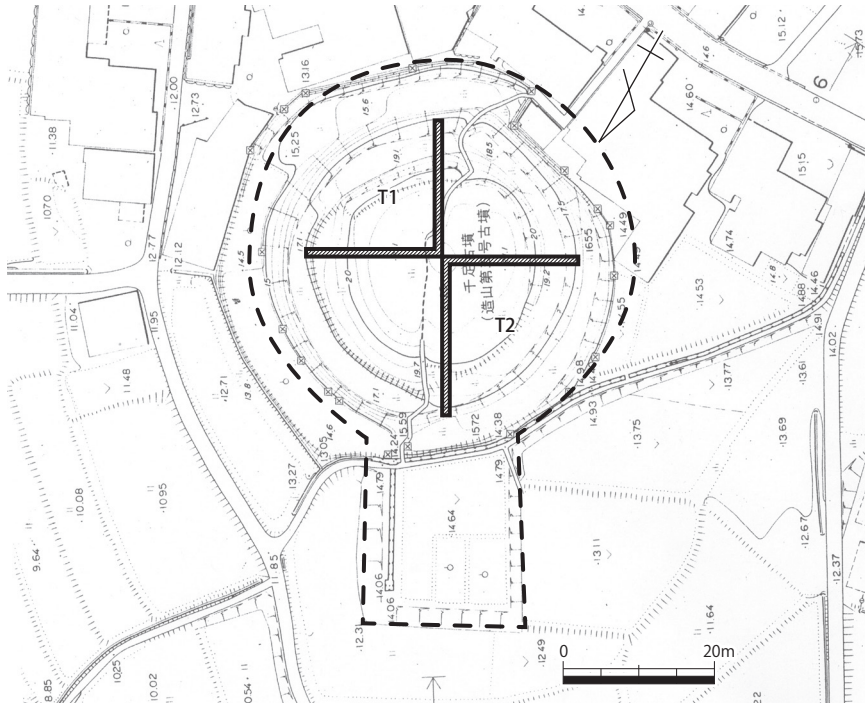
岡山市教育委員会では、石障の損傷が発見された史跡千足古墳の保存事業に伴い、11月より発掘調査を進めてきました。このたび調査がほぼ終了したため、みつかった遺構や遺物を公開することとなりました。

## 千足古墳について

千足古墳は、造山古墳群とされる、6基の古墳の中の一つです。墳形は前方後円墳で、前方部が後円部に比べて短い帆立貝形と呼ばれるものに含まれます。全長約74mで、後円部の径は約55m、墳頂部の径約25m、高さ約6.8mあり、後円部は三段築成と考えられます。



遺跡位置図（1/5000）



調査区配置図 (1/500)

## 調査成果の概要

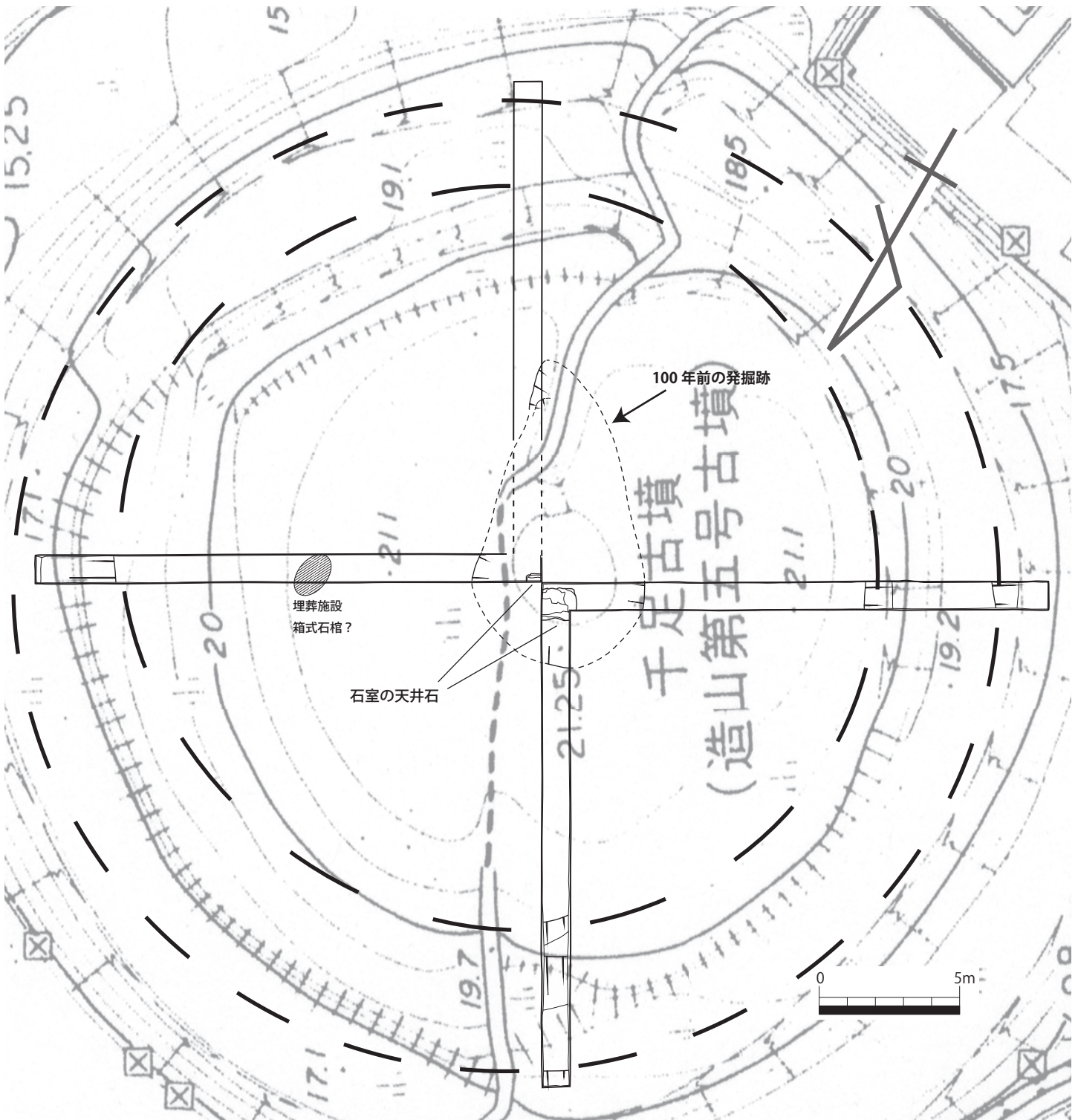
今回の調査は、今後の石障の保存計画を進めるための基礎資料を得ることを目的としています。石室内に進入する水の流入路の把握や墳丘の構造を調べるために石室を中心に十次方向へ調査区を設けました。

調査の結果、石室上面から大正元年（1912）に発掘された痕跡を確認しました。発掘痕跡は、石室の天井石まで続いており、石室に溜まる水は、この痕跡を通して流入している可能性が高いものと思われます。

墳丘の作り方も今回の調査で判明しました。後円部の2段目より上は、地山を削って作るのではなく、土を盛って人工的に築いていることが明らかとなりました。盛土はしまりの強い、粘性のある土を使用しています。また、今回は墳丘の斜面まで調査しましたが、出土が期待された埴輪列や葺石などの外部施設は確認できませんでした。

## 今回発見された埋葬施設（箱式石棺）について

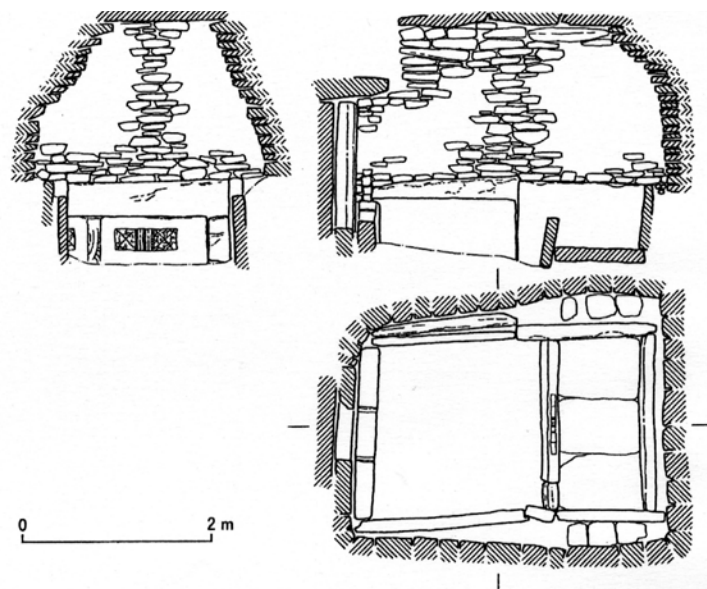
墳頂部の平坦面から、埋葬施設の可能性のある遺構が今回発見されました。箱式石棺と考えられます。棺を覆う礫の隙間には粘土が充填されており、丁寧な埋葬が行われていることをうかがえます。過去の発掘においても、石室の周辺から粘土槨と推定される埋葬施設が存在しており、中心主体部である横穴式石室を含め、千足古墳は少なくとも3つの埋葬施設が存在する古墳であるとわかりました。



調査区全体図 (1/200)

## 出土遺物

流土中から埴輪片が出土しました。また、墳丘の盛土中から弥生土器片が出土しています。その他、墳丘上に築かれていた祠の基礎土から、鉄器の破片と思われるものが少量出土しています。

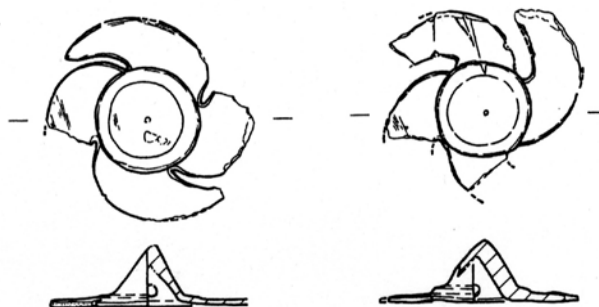


千足古墳 石室実測図

※葛原克人・古瀬清秀 2000『吉備の古墳 下』吉備人出版より



だ龍鏡



巴形銅器

## 伝・千足古墳出土遺物 (1/2)

岡山市埋蔵文化財センターでは現在、企画展『前方後円墳の時代への道』を開催しています。展示品の中に、千足古墳から出土したと伝えられる巴形銅器をはじめとする遺物を展示しています。期間は平成23年3月18日までです。入館料は無料です。ぜひお越しください。

岡山市埋蔵文化財センター

電話：086-270-5066

住所：〒703-8284 岡山市中区網浜 834-1

開庁時間：月曜日から土曜日ただし、祝祭日および年末年始の休日をのぞく。午前9時から午後4時30分まで

